



東地中海地域ニュース

イスラエル・パレスチナ：オルメルト首相とアッバース大統領会談

(7月17日付「ハアレツ」紙)

1. 7月16日、オルメルト首相とアッバース大統領は側近を交えて1時間会談した。その後、両者は二人だけで1時間、「政治的展望」と「2国家解決」について直に話し合った。
2. 会談でオルメルト首相はアッバース大統領に、多数がファタハ系のパレスチナ人収監者250名の釈放を正式に伝達した。これら収監者には未成年11名、服役15年の高齢者1~2名が含まれ、イスラエル人の殺害に関与した者は含まれていない。収監者は20日に釈放される見込み。
3. 又、オルメルト首相はアッバース大統領に対し、「ファタハとハマスとの如何なる協力も、我々の観点から、政治プロセスの破壊とみなす」と警告した。イスラエル政府筋によれば、アッバース大統領は、「そのような協力は行わない」と約束した。
4. 両者は、6月末のシャルム・エル・シェイクでの4者会談（両者及びムバーラク・エジプト大統領、アブドラ・ヨルダン国王が参加）にて、オルメルト首相が約束した事項のリストを確認した。イスラエル首相府筋によれば、同リストは完全に実施された。
5. パレスチナ側は、国境、エルサレム、難民問題という最終地位合意の3つの中心的議題の協議開始を提案したが、オルメルト首相は、これらの協議は時期尚早であり、他に協議を要する重要事項があるとして、同提案を拒否した。
6. アッバース大統領は、イスラエルから恩赦されるファタハ系武装勢力178名のうちの約100名が、テロを止め、PAに武器を引き渡す合意に署名したと述べた。又、ヨルダンからPA治安部隊への武器の移送を含む幾つかの治安関連要求を行った。
7. オルメルト首相は、PLO傘下のバドル軍団のヨルダンから西岸への移送の再検討を約束した。又、数日後に開催されるファイヤード新政権の強化に向けた政治集会に参加する予定の古参PLO幹部の西岸入りを認めたと述べた。
8. オルメルト首相は、引き続きガザ地区への人道支援物資の移送を認めると約束した。又、アッバース大統領はオルメルト首相に、パレスチナの経済開発のために、ヨルダン渓谷から他の西岸地域への物資輸送の拡大許可を要請した。
9. 両者は、2週間後に再会を確認し、オルメルト首相は、次回の首脳会談がジェリコにて開催されるのを期待しているとした。

本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799